えびふらい

スグル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
えびふらい

【Ｎコード】
Ｎ９３３２Ａ

【作者名】
スグル

【あらすじ】
僕の名前は、俳優志望の吉崎孝則・・。２５歳の独身・・。子供向け番組「山登り戦隊ヤマレンジャー」の悪の親玉のエビフライ伯爵・・。それが、僕の役名だ・・。

・・・・・・・・・・・・・

黒いマントを羽織ったタキシードのエビの顔をしたマスクをした男が、断崖絶壁で笑っていた。
そして、その断崖絶壁の下には、赤、青、緑、黄、桃色の5人のスーツがいた。
「おのれ！！エビフライ伯爵め！！」
と、赤いスーツが叫ぶ。

そう、これは子供向け番組「山登り戦隊　ヤマレンジャー」の収録現場である。
この「山登り戦隊　ヤマレンジャー」は、近年、稀に見る重厚すぎるドラマ性と、アクションシーンで話題騒然である。
そして、登場人物がイケメン。
そのため、主婦層にも人気である。
さらには、ヤマ・ピンク役の弱冠18歳の少女がとても可愛く、男性層にも大人気。
しかも、彼女は朝8：30なのに、毎週入浴シーンをやってくれるというサービスっぷりに視聴率もうなぎ登り。
とにかく、この番組は大人気である。

そして、遅れたが、僕の名前は吉崎孝則・・。
25歳の独身・・。
このヤマレンジャーのメンバーの一人を・・。
やってるわけもなく・・、今、例の黒いマントを羽織ったタキシードのエビの顔をしたマスクを被ってる男をやっている・・。
この番組の悪役。

しかも、視聴者に最高に嫌われている悪の親玉のエビフライ伯爵・・。
さらには、顔も見えない・・。
それが、僕の役・・。
「あっははは！！私は、エビフライ伯爵だ！！」
なに、言ってるんだ俺・・。
ツマブシ・サトシ君のような清純派の俳優を目指して、この世界に入ったのに・・。
しかも、２２歳の時に、勤めていた仕事をやめて来たってのに・・。
あまりにも、生活が厳しくて、この役を・・。

「カットー！！」
「お疲れ様でしたー」

そして、収録が終わった。
ああ・・、帰れる・・。
マスクを脱ぐと、スカッとする。
もうこの撮影、嫌だ・・。
だが、いつか、このことを苦労話出来るくらいの大物になってやる・・。
そうして、いつもの妄想が始まる・・。

・・・・・・・・・・

平日のお昼に、サングラスの人が、僕向けて話しかけている。
「デビューが、エビフライ伯爵ってね・・」
「いやー、本当に辛かったですよ・・」
と、僕は笑いながらに得意げに話している。
そして、ファンにキャーキャー騒がれている・・。

・・・・・・・・・・・・・

「お疲れ様です」

「はっ！！」

その声で、急に現実に戻された。

僕を現実に戻したのは、エビフライ伯爵の部下で、数十人いるやられ役の黒い全身スーツの戦闘員役の篤元豪って名前の青年だ。

なんでも、彼はこの番組の大ファンで、戦闘員役でのバイトをしてまで、この番組に関わりたいとまで言ってるくらいの熱心な青年。

悪く言えば、オタクだ。

僕は、彼としか親しくなかった。

他の俳優さんは、監督とスタッフで楽しく喋ってる。

僕は、あのメンバーに入りにくかった。

というか、入れてもらえなかった。

畜生！僕だって、あのヤマ・ピンク役の桃木道子ちゃんと、トークしたぃんだよ！！

しかし、こんなのは叶わぬことだ・・。

僕と彼女の差は、Ｆ－１カーと、自転車ぐらいの差がある・・。

畜生！！２５歳という、なんか生々しい年齢が嫌だ！！

しかも、この番組の役者で、一番、年長じゃねぇか！！

そんなわけで、僕は篤元君と一緒に、弁当を食べている・・。

「エビフライ、上げますよ」

と、篤元君は弁当のエビフライを渡してきた。

「ああ、ありがとう・・」

嫌味に感じるが、彼は天然だから仕方ない・・。

エビフライ伯爵役の僕が、エビフライを口に含む姿は情けない・・。

「それにしても、道子ちゃん可愛いですねー」

と、篤元君が言う。
「そうだね・・」
僕は、軽く答えた。
それにしても、本当に彼女は可愛い・・。
実は言うと、自分のパソコンには、彼女の番組内のキャラクターソングが入っていたり、彼女のグラビアまである。
彼女は、ネットでも悪い噂が書かれない。
まさに、現世の天使。

「彼女・・、ヤマ・レッドの拓村木哉と付き合ってるんですってね」

と、篤元君が言った。
僕は、その一言で背筋が凍った。
「えっ・・、嘘だろ・・」「本当ですよ・・。ネットの8ちゃんねるで、話題騒然ですよ」
余計なこと言うなーー！！
このオタクが！！！
嘘だろ！！所詮！！

・・・・・・・・・・・・・

「本当だ・・」

篤元君、自前のノートパソコンで、例のサイトを見た。
そういや、彼女、拓村君とよく話していた・・。
しかも、その時の彼女の顔は、無邪気な少女ではなく一人の女性のような顔つきだった。
「死のう・・」僕は、そう言った。
あまりにも、ショックだったのだ。

「なに、言ってるんですか！！吉崎さん」
話を振った篤元君が、そう言う。
元はと言えば、お前が・・。
「道子ちゃんと、拓村君が付き合ってたなんて・・」
「吉崎さん、道子ちゃんのこと好きだったんですか・・」
急に、同情を始めやがった・・。
こんにゃろう・・。
「女なんて、他にも居ますよ・・」
と、僕の肩に手をかけた。
なめとんのか！！こいつ！！

・・・・・・・・・・・・・・・

「はぁ・・、散々だよ・・」
と、収録現場から自宅に帰ることにした。
だが、未だにショックが大きい。
都会の街並みが、冷たく感じる・・。
もう僕には・・。

「離して下さい！！」

と、急に女性の声が聞こえた。
その方向に、顔を向けると、若い女性が暴漢に襲われている。
このあたりは、こういう事件が多いんだ。

急に、腹が立ってきた。
例の件といい、この暴漢のこといい・・。
僕は、ついカッ！となり、その暴漢の方に走った。
「おい！なにやってるんだ！！」
と、叫んだ。

「ちっ！」
暴漢は、彼女の手を離した。
それで、男はあっさり逃げて行った。
まったく、これでは日本が駄目な方向に動くぞ・・・。
「はぁはぁ・・、ありがとうございます・・」
彼女は、ひどく怯えていた。
とても怖かったようだ。
しかも、彼女は飛びっきりに可愛いではないか・・。
なんというか、道子ちゃんより萌えではないか・・・。
電車男みたいな展開だが、所詮は現実なので、特に今後の展開に期待しないで、このまま帰ろう・・。
あとは、警察にお任せ・・。
「それでは、これで・・」
と、僕は去ろうとした瞬間・・。

「あの・・、家までご一緒・・、出来ませんか・・」

嘘だろ！！

・・・・・・・・・・・・・・

信じられないことだが、僕は彼女のアパートに来ている・・。
さっきまでの絶望っぷりは、なんだったのだ・・。
彼女は２１のＯＬ。
いつもと違う道を通っていたら、襲われたそうだ。
そこに、ヒーローのように現れたのが僕である・・。
ちなみ、僕はまだ名乗ってないし、職業も言ってない。

「どうぞ・・、ごゆっくり・・」
「ああ・・、すいません・・」

と、彼女の部屋に上がって、お茶をご馳走になっている・・。
しかし、彼女の部屋は・・、美少年のポスターが貼られている・・。
有名どころのアイドルばかりだ・・。
意外にも、オタクか・・。

げっ、「山登り戦隊　ヤマレンジャー」のポスターが・・。
彼女も拓村の虜か！！
「あのヤマレンジャーのファンですか・・」
「あっ、はい・・」
やはりか・・。
「ああー、そうですかー。実は、僕この番組のスタッフなんですよー」
「そうなんですかー」
役名は、死んでも言えない・・。
「んでもって・・、やっぱり、拓村君のファンですか・・？」
と、思わず聞いてしまった。
「いいえ・・」
やったーーー！！！！
何故か、喜んでしまった。
じゃあ、誰のファンなんだ？

まさか・・。
「あの・・、この番組のエビフライ伯爵って居ますよね・・」
「はい・・」
もしかして、彼女は・・。
これで、彼女がエビフライ伯爵に好感があったら・・。
これって、運命・・。
これて、デスティニー・・。
「彼って、どう思いますか？」
ついに、そう言ってしまった・・。

果たして、彼女の答えは・・・。

「メチャクチャ、嫌いです」

僕を殺して。

・・・・・・・・・・・・・・・

翌日の収録。

「あっははは!!私は、エビフライ伯爵だ!!世界征服してやるぞ!!畜生!!てめら、地獄落としてやんぞ!ボケ!!アホ!!カス!!」

と、僕は断崖絶壁で笑っている。

エビフライ伯爵の姿で。

「うむぅ・・、凄い演技だぞ・・・。吉崎君・・」

と、監督が唸っている

あれから、その彼女とは音信不通だ・・・。

あの後、普通に帰った。

泣きながら、帰った。

エビフライ伯爵を、憎みながら帰った。

しかし、エビフライ伯爵は、僕自身だ・・・。

（後書き）

２本目の短編です。
読んでいただき、ありがとうございます。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9332a/

えびふらい

2010年10月28日06時42分発行